



2019年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2018年11月12日

上場会社名 株式会社サニーサイドアップ 上場取引所 東
 コード番号 2180 URL http://www.ssu.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 次原 悦子
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 グループ管理本部 (氏名) 相田 俊充 TEL 03-6894-3233
 本部長
 四半期報告書提出予定日 2018年11月13日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

百万円未満切捨て

1. 2019年6月期第1四半期の連結業績（2018年7月1日～2018年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年6月期第1四半期	3,045	0.0	179	76.5	174	73.6	128	211.0
2018年6月期第1四半期	3,044	△6.7	101	△61.2	100	△61.8	41	△73.6

(注) 包括利益 2019年6月期第1四半期 125百万円 (148.9%) 2018年6月期第1四半期 50百万円 (△68.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年6月期第1四半期	17.36	17.18
2018年6月期第1四半期	5.59	5.54

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年6月期第1四半期	5,086	1,943	36.0
2018年6月期	5,327	1,888	33.4

(参考) 自己資本 2019年6月期第1四半期 1,830百万円 2018年6月期 1,779百万円

※「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2018年6月期の連結財政状態については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年6月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2019年6月期	—	—	—	—	—
2019年6月期（予想）	—	0.00	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2019年6月期の連結業績予想（2018年7月1日～2019年6月30日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	7,670	12.0	240	54.3	239	54.7	148	207.5	20.09
通期	15,000	10.8	500	40.7	500	36.8	323	△15.1	43.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(注) 詳細は、添付資料 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2019年6月期1Q	7,438,400株	2018年6月期	7,434,400株
② 期末自己株式数	2019年6月期1Q	64,250株	2018年6月期	64,248株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2019年6月期1Q	7,371,499株	2018年6月期1Q	7,354,300株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、添付資料 3 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間の当社グループの業績の牽引要因は次のとおりです。

●収益基盤の強化が進む「マーケティング・コミュニケーション事業」

●2020年を見据えて着実に成長する「スポーツ事業」

なお、「bills事業」において新規店舗出店関連コストを計上しておりますが、「SP・MD事業」の業績が回復基調になったことに加えて、収益の柱である「マーケティング・コミュニケーション事業」、「スポーツ事業」の事業進捗および収益性の向上により、前年同期比で増益となっております。

その結果、当第1四半期連結累計期間の連結業績は、売上高3,045百万円（前年同期比0.0%増）、営業利益179百万円（前年同期比76.5%増）、経常利益174百万円（前年同期比73.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益128百万円（前年同期比211.0%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

①マーケティング・コミュニケーション事業

戦略PR、プロモーション、ブランディング、コンテンツ開発等、時代のニーズに沿ったマーケティング・コミュニケーションサービスを提供する当事業では、大きな話題を創出する企画力と強力なメディアネットワークを活用し、食品・飲食業界や小売業などの従来の得意分野だけでなく、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を目前に控えて次々にオープンする商業施設の開業PRおよびプロモーション、大手コンビニチェーン等で継続的に実施されている人気キャンペーンおよび物販施策、独自のキャスティングノウハウを活用した企業ブランディング等の幅広い案件を手掛けることで、基幹事業としてグループの業績を牽引しております。

その中でも、商業施設関連案件については、ローンチ時において最大限の露出を実現させる戦略的なブランディング視点を強みに当該領域における成功事例を増やし続けており、当第1四半期連結累計期間では、渋谷駅南側エリアの大規模再開発の象徴の一つである「渋谷ストリーム」や「渋谷ブリッジ」の開業PR等を手掛けております。

当事業ではリテナー案件が増加したことで収益性が向上した一方、売上規模が大きいスポット案件の比率が低下したことで売上高が前年同期比で減少しました。また、案件構成の変化に加えて、業務効率化ならびにマネジメント強化に取り組んだ他、グローバル案件の専門部署を新設し、2020年をターゲットにした新規案件獲得を目的とした営業要員の戦略的配置を行っております。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,208百万円（前年同期比17.7%減）、セグメント利益は213百万円（前年同期比10.3%増）となりました。

②SP・MD事業

店頭等の消費者との接触ポイントにおける購買・成約の意思決定を促すためのソリューションを提供するSP・MD事業では、前期より取り組んで来た業績安定化に向けた施策の成果が出始めております。

当第1四半期連結累計期間においては、キャンペーンおよびノベルティグッズの製造ノウハウを活かしたテーマパーク向けの雑貨商品のOEM事業、接触ポイントにおいて消費者を購買活動に促すノウハウを活かした国際支援団体のマーケティングサポート事業、小学校における義務教育化を見据えたプログラミング用教材事業などが堅調に推移し、SP・MD事業の強みを最大限に活かしつつも、特定の領域に傾倒しない事業ポートフォリオの再構築が着実に進んでおります。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は345百万円（前年同期比78.1%増）、セグメント利益は19百万円（前年同期はセグメント損失91百万円）となりました。

③スポーツ事業

日本のスポーツビジネスを牽引してきたスポーツ事業では、2019年のラグビーワールドカップ日本開催、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を目前に控え活況を迎えるスポーツ関連市場において幅広い案件を獲得することで、着実な成長を遂げております。

当第1四半期連結累計期間においては、当社所属のアスリート・文化人の肖像権ビジネス・関連イベント、日本ラグビーフットボール協会の年間活動のサポート、プロ野球、Jリーグ等のプロスポーツチームのマーケティングサポート、スポーツの新しい形として世界的にも注目が高まるeスポーツ関連案件等が堅調に推移いたしました。

著名なアスリートのマネジメントビジネスにおいて大きな成果を残してきた当社ですが、現在では、マネジメント業務にとどまらず、PR発想を活用したスポーツマーケティングビジネスとして、各種スポーツ団体のブランディングおよびコンサルティング、スポーツイベントの企画運営等、活動領域を広げることで、事業成長を図っております。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は293百万円（前年同期比22.2%増）、セグメント利益は58百万円（前年同期比34.0%増）となりました。

④bills事業

オールデイカジュアルダイニング「bills」のブランディング・ライセンスビジネスおよび海外店舗の運営業務を手掛けるbills事業では、新規店舗の出店および既存店舗の強化により、収益基盤の拡大と強化を進めてまいりました。国内と海外における状況はそれぞれ下記のとおりです。

(国内)

2017年11月に「bills 大阪」を出店したことにより店舗数が増加したことで増収となりました。記録的な大雨・台風等の天候不良の影響があったものの、「bills 銀座」および「bills 表参道」を中心としたインバウンド需要の着実な取り込み、新メニューの導入等による集客力強化が奏功し、既存店舗は概ね堅調に推移しております。

(海外)

グローバル戦略の旗艦店である「bills Waikiki」については、収益性の向上に引き続き取り組んでおります。韓国については、既存の2店舗(蚕室および光化門)が出店投資の回収期を迎えた一方で、更なるグローバル展開を見据えた計画を着実に遂行しており、2018年9月には韓国3号店となる「bills 江南」を新規出店したことで前期費用を計上しました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,143百万円(前年同期比2.6%増)、セグメント利益は42百万円(前年同期比52.2%減)となりました。

⑤開発事業

当社グループならではのPR発想を活用することで「bills」などの新規ビジネスを創出してきた開発事業では、現在、活性化する転職市場において独自のネットワークを駆使し、広告・マーケティング業界を中心に成長を目指す転職エージェントである㈱サニーサイドアップキャリア、および少数精鋭で特化した領域における高い専門性を発揮するサービスを提供するPRブティックである㈱エアサイドの2社が新たな収益源の確立に取り組んでおります。

当第1四半期連結累計期間では、エアサイド社がエンターテインメント業界の案件を中心に獲得し、順調に業績を伸ばしております。サニーサイドアップキャリア社では、将来の成長性を見込み、従来の対象以外の領域への営業強化に取り組んでおります。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は54百万円(前年同期比104.0%増)、セグメント損失は6百万円(前年同期はセグメント利益5百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、5,086百万円(前連結会計年度末比240百万円減)となり、資産の内訳につきましては、流動資産が3,703百万円(同367百万円減)、固定資産が1,382百万円(同126百万円増)であります。また、負債合計は、3,143百万円(同295百万円減)となり、負債の内訳につきましては、流動負債が1,987百万円(同271百万円減)、固定負債が1,155百万円(同23百万円減)であります。純資産合計は、1,943百万円(同54百万円増)となりました。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度末との比較・分析を行っております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては現時点において、2018年8月10日に発表しました2018年6月期決算短信に記載しております2019年6月期の連結業績予想(2018年7月1日～2019年6月30日)から変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。今後、様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,712,751	1,222,709
受取手形及び売掛金	1,787,068	1,435,485
商品及び製品	1,368	2,799
未成業務支出金	236,866	704,682
原材料及び貯蔵品	36,457	40,561
その他	297,173	297,890
貸倒引当金	△163	△156
流動資産合計	4,071,521	3,703,971
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	544,458	637,960
その他(純額)	125,492	137,807
有形固定資産合計	669,951	775,767
無形固定資産		
その他	5,711	5,963
無形固定資産合計	5,711	5,963
投資その他の資産		
その他	629,440	649,552
貸倒引当金	△49,541	△48,945
投資その他の資産合計	579,898	600,606
固定資産合計	1,255,561	1,382,336
資産合計	5,327,083	5,086,308
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,070,224	1,047,332
短期借入金	56,199	-
1年内返済予定の長期借入金	231,521	219,741
未払法人税等	225,859	72,356
賞与引当金	-	2,157
役員賞与引当金	66,992	-
その他	608,626	646,403
流動負債合計	2,259,423	1,987,991
固定負債		
長期借入金	676,678	632,477
資産除去債務	84,589	97,920
その他	417,579	424,770
固定負債合計	1,178,847	1,155,169
負債合計	3,438,270	3,143,160

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	489,636	491,076
資本剰余金	637,999	639,440
利益剰余金	649,817	704,124
自己株式	△30,281	△30,283
株主資本合計	1,747,171	1,804,357
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,127	5,131
為替換算調整勘定	27,163	21,281
その他の包括利益累計額合計	32,290	26,413
新株予約権	33,874	33,049
非支配株主持分	75,475	79,328
純資産合計	1,888,812	1,943,148
負債純資産合計	5,327,083	5,086,308

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年7月1日 至 2017年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)
売上高	3,044,885	3,045,963
売上原価	2,520,135	2,473,762
売上総利益	524,749	572,200
販売費及び一般管理費	423,059	392,679
営業利益	101,689	179,521
営業外収益		
受取利息	396	157
為替差益	-	4,955
受取家賃	9,595	-
その他	2,149	2,843
営業外収益合計	12,141	7,955
営業外費用		
支払利息	2,481	1,375
持分法による投資損失	6,001	10,444
賃貸費用	2,509	-
その他	2,385	1,305
営業外費用合計	13,377	13,124
経常利益	100,453	174,351
特別利益		
固定資産売却益	2,956	-
持分変動利益	10,471	26,767
特別利益合計	13,427	26,767
税金等調整前四半期純利益	113,881	201,118
法人税等	62,746	69,257
四半期純利益	51,134	131,861
非支配株主に帰属する四半期純利益	9,971	3,852
親会社株主に帰属する四半期純利益	41,162	128,008

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年7月1日 至 2017年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)
四半期純利益	51,134	131,861
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	769	3
為替換算調整勘定	△1,282	△5,881
その他の包括利益合計	△512	△5,877
四半期包括利益	50,621	125,983
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	40,649	122,130
非支配株主に係る四半期包括利益	9,971	3,852

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2017年7月1日 至 2017年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	マーケティング・コミュニケーション事業	SP・MD事業	スポーツ事業	bills事業	開発事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	1,468,773	193,953	240,338	1,115,107	26,712	3,044,885	-	3,044,885
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	23,194	6,900	1,040	22,897	54,032	△54,032	-
計	1,468,773	217,147	247,238	1,116,148	49,609	3,098,918	△54,032	3,044,885
セグメント利益又は損失(△)	193,663	△91,860	43,658	88,728	5,809	239,999	△138,309	101,689

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額の内容は以下のとおりであります。

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間
セグメント間取引消去	12,488
全社費用(注)	△150,798
合計	△138,309

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	マーケティング・コミュニケーション事業	SP・MD事業	スポーツ事業	bills事業	開発事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	1,208,600	345,364	293,702	1,143,808	54,488	3,045,963	-	3,045,963
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,647	27,843	554	808	3,144	35,997	△35,997	-
計	1,212,248	373,207	294,256	1,144,616	57,632	3,081,961	△35,997	3,045,963
セグメント利益又は損失(△)	213,615	19,726	58,508	42,451	△6,689	327,612	△148,091	179,521

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額の内容は以下のとおりであります。

(単位:千円)

	当第1四半期連結累計期間
セグメント間取引消去	7,617
全社費用(注)	△155,708
合計	△148,091

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。